

- 1 会議名 厚生・文教常任委員会協議会
- 2 日時 令和6年9月13日(金)
午後2時15分から午後3時3分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席委員 (委員長)片岡健一郎 (副委員長)須藤智子
(委員)梅村均、谷平敬子、堀江珠恵、大野慎治、木村冬樹
- 5 執行機関出席者 市民協働部長 伊藤新治、市民窓口課長 富邦也、同主幹
佐野亜矢
- 6 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、主幹 田島勝己
- 7 委員長挨拶
- 8 協議事項

(1) 第3期岩倉市国民健康保険データヘルス計画及び第4期特定健康診査等実施計画について

市民窓口課長：資料に基づき説明。

片岡委員長：質問があれば挙手をお願いします。

木村委員：第1期と第2期のデータヘルス計画について、事業計画に8項目あり、以前の計画で覚えているのは、高血圧が県内で一番多く、それに重点を置いた検診や受診勧奨などの計画となっていたが、今回も同じようになっているのか。例えば、高血糖と高血圧と糖尿病成人症の重症化予防の3つの疾患について書かれているが、岩倉市ではそこで医療費がかかっている状況なのか。この計画のもとになるところを教えてください。

市民窓口課主幹：岩倉市の医療費の状況と健康課題について説明する。まず医療費については、診療ベースで見ると調剤や入院外来等がある。国民健康保険に関しては少しずつ減少している。これは被保険者数の減少の影響を受けていると思う。疾病別で見ると外来では尿路性器の割合が伸びている。計画で重要な健康課題について説明する。岩倉市民の健康課題として高血圧があるが、最近の状況を見ると糖尿病の外来数が増加傾向にある。高血圧の患者数と比較すると少ないが、医療費全体に占める割合で見ると高血圧患者より高い。糖尿病は進行すると人工透析につながる。人工透析は医療費増大の要因のひとつとなっている。高血圧の患者に関しては外来数や患者数は減少しているものの、3度の高血圧患者が減少傾向にあるが、3度の高血圧から1度、2度の高血圧患者に下がっているため、高血圧の外来や患者数が減ったという状況だとは判断できない。第3期の計画では、糖尿病の進行を抑える取組に特化したのが2期と

の違いである。

木村委員：高血圧は少しずつ落ち着いてきて、低い方に移行している。高血圧は投薬で医療費はあまりかからないが、糖尿病は悪化すると人工透析となり、普段もインシュリン注射等で医療費がかかると思う。そういう理由で糖尿病に特化しているということでしょうか。

市民協働部長：そのとおり。

木村議員：疾病別ではそういった形になっているところで、例えば後発医薬品の利用促進や重複服薬者を減らすというところはどうか。現時点では81%が後発医薬品で、6年間で86%を目標とする見方か。国民健康保険だと後発医薬品希望のシールを保険証に貼ったりしているが、それが利用されているということか。

市民窓口課主幹：ジェネリックを希望するシールについては保険証更新の時期と納税通知書の中で知らせている。お薬手帳や保険証ケースに貼っていただいて啓発している。後発医薬品の普及状況は国保連からデータで示されており、それでどれぐらい使用されているか把握している。

梅村委員：高血圧の定義は。

市民窓口課主幹：基準の範囲があり、収縮期の基準の範囲は129以下、保健指導の判定値は130以上が対象となる。受診勧奨の判定値は140以上で、急いで治療が必要と案内するのは160以上が基準である。

梅村委員：下の基準も願います。

市民窓口課主幹：下が100を超えると治療が必要という案内になる。140の時は下が90以上。130の時は下が85以上。129の時は下が84以下。

片岡委員長：後発医薬品の利用促進について、ジェネリックは安いから劣っているという声を聞く。私が成分は同じだと説明しても理解してもらえない。このように勘違いしている人も多いのではないかと推測するが、ジェネリックに関する正しい知識の周知をどのように考えているか。

市民窓口課主幹：納税通知書に案内している冊子で説明しているが、特化した周知はしていない。薬局での案内等を経験されていると思うが、広く案内できると思う。誤解のないよう正しい内容を案内できるよう考えている。

(2) その他

・行政調査について

事務局：資料に基づき説明。

梅村委員：千年希望の丘の後に岩沼市役所に行くのは何故か。

事務局：宿まで送っていただくと送迎する先方の負担になるため、このような行程にしてある。岩沼市役所から宿は近く、徒歩で行ける。

片岡委員長：調査事項について特に意見等なければそのまま送付する。

8 その他

なし